

保育
付き

令和7年度 西東京市ひばりが丘公民館主催 子育て中の女性のための講座

上映とトーク

わたしの声を 発見する

3/15~
10:00-12:00
全2回

参加費無料

子育て中のアーティストと母親たちが、現代における子育ての孤立と向き合い、自分の「声」に耳を傾け、表現するプロセスから生まれた映像作品を上映します。



上映中、お子さんを
保育室でお預かりします
(6ヶ月以上の未就学児・要予約)

講師



坂本 夏海
アーティスト
(Photo: Alan Dimmick)



齋藤 梨津子
早稲田大学
文化構想学部助手



『Dismantling Motherhood 2024』
(監督:坂本 夏海、38分)

場所

西東京市ひばりが丘公民館 集会室 ほか

WEBサイトはこちら



対象

3/15はどなたでも、3/22はテーマに関心がある女性

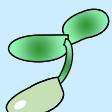
定員

18人(多数抽選 ※公民館保育付きが初めての方優先)

保育

生後6か月以上就学前の乳幼児12人(1歳未満は3人程度、おやつ・麦茶代180円)

※保育を利用する方は3月8日(日)の保育説明・交流会に必ずご参加ください。



申込み

3月3日(火)17時までに申込フォームか二次元コードから、
または、ひばりが丘公民館へ電話でお申し込みください。

申込フォーム <https://logoform.jp/f/38iCq>

📞 042-424-3011 (平日9時から17時まで)



申込用コード

全2回のプログラム

※ 10時～12時

[WEBサイトはこちら](#)



	日程	上映作品・各回テーマ
☆	3/8(日)	保育説明・交流会（保育員・担当職員） ※保育を利用される方は必ずご参加ください
①	3/15 (日)	上映とトーク 母親の表現活動を記録した映像作品  『Dismantling Motherhood』 (監督:坂本夏海、38分、2024年)  『Singing Together in a Museum』 (監督:坂本夏海、12分、2025年)
②	3/22 (日)	「ケアする人のケアはどうする？～声に出会うために必要なこと」 (11時半～12時) 保育報告会

Dismantling Motherhood実行委員会

「母」という言葉を「解体」し、母親業がもつ「他者をケアする能力」を「ひらく」ことを目指す実験的なアートプロジェクトを軸に、そのプロセスを分析・考察し、共同でふり返るさまざまな活動に取り組んでいる。アーティストの坂本夏海はアートプロジェクトを手掛け、研究者の齋藤梨津子はそれらを分析し論考にまとめ、発信している。

坂本 夏海 アーティスト。Back and Forth Collective メンバー

記憶の継承に埋め込まれたジェンダー役割の政治性を探求する映像インсталレーション作品を開発する。近年はフェミニズムの「周縁」に存在した女性の連帯の歴史調査を軸とした芸術実践を行う。最近の活動に「To Make (Our) Work Song」(グラスゴー現代美術センター、2024年)、「When Bodies Whisper」(Timespan、2023年)など。2023年度ACYアーティスト・フェロー。<https://www.natsumi-sakamoto.com/>



Photo:Alan Dimmick



齋藤 梨津子 早稲田大学文化構想学部助手、同大大学院文学研究科博士課程在籍。養育里親日本とシンガポールで文化政策とカルチュラル・スタディーズを学ぶ。フェミニスト・ペタゴジーとケアの倫理の観点から、〈母親〉となった人びとが参加するアートの実践における共同の学びのプロセスと構造を研究している。アートにもケアにも負の側面があることを意識しながら、両者の理論・実践を架橋することを目指す「アート/ケア/文化政策」研究会メンバー。<https://researchmap.jp/ritsukosaito>

問合せ 西東京市 ひばりが丘公民館

📞 042-424-3011 (平日9時から17時まで)
✉️ hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp

西東京市 ひばりが丘公民館へのアクセス
西武池袋線「ひばりヶ丘駅」南口から徒歩10分
西武新宿線「田無駅」北口から西武バス【境03】
「谷戸イチョウ公園」下車

